

戸台川流域におけるフサフジウツギの植生について

○調査地および調査方法

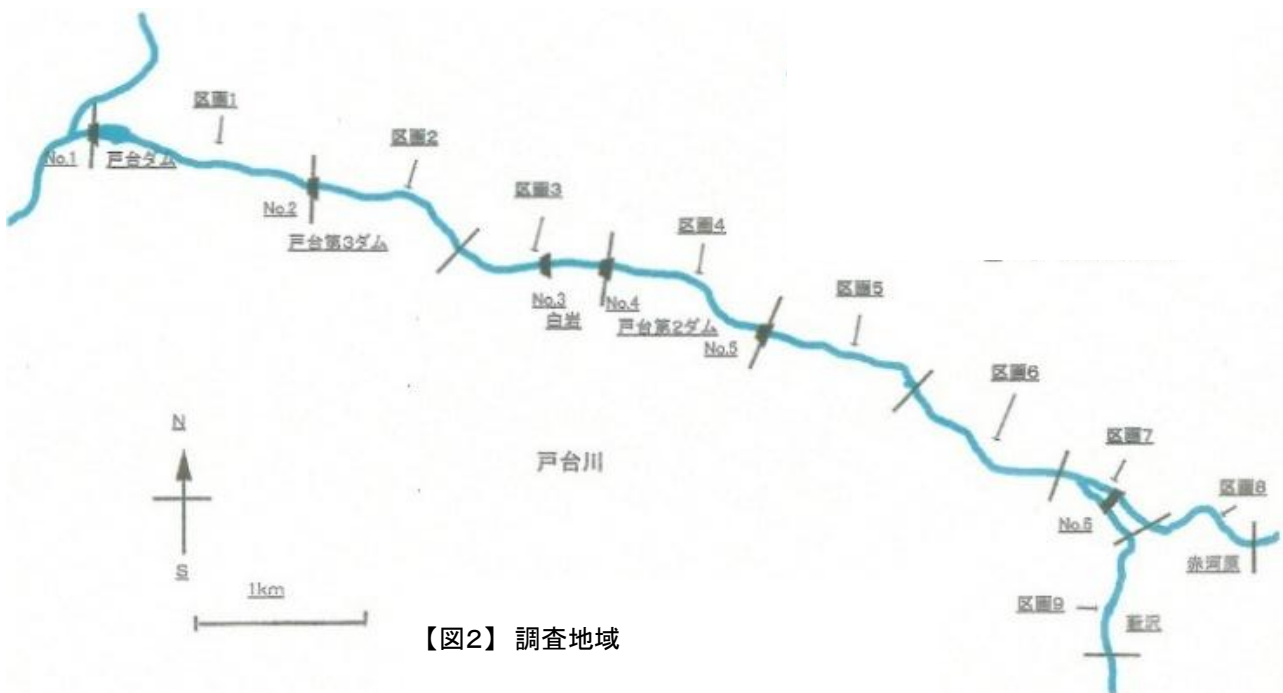
調査地は、2001年の大窪の調査と同様に伊那市長谷村戸台にある戸台ダム（標高1000m）から赤河原と藪沢の中流域（標高約1600m）までを調査対象地域とした【図1】。戸台ダムから上流に約1kmまでを区画1、そこから1km上流を区画2と、約1kmごと9区画に分けて各調査を行った。区画名は下流から順に区画1～9とした。【図2】



フサフジウツギ（撮影:伊東美水）

また、文献調査で、フサフジウツギと同属で在来種のフジウツギの存在を知り、合わせて調査することにした。調査地を歩きながらこの2種を見つけるたびに、位置情報が付加できるスマートフォンやデジカメで撮影した。そのデータをグーグルマップにプロットして分布図を作成した。そして、集めたデータを地図にプロットしたものと伊藤（1998）の調査結果を比較し考察した。

【図1】 調査地概略図



○調査結果

調査結果を区画ごとに分けて98年の結果と比較すると次のようになった。【表1】

【表1】1998年の調査結果との比較

	区画	標高	フサフジウツギ		フジウツギ	
			1998年	2023年	1998年	2023年
下流	1	1,000～1,040m	群落	群落	点在 → 確認できず	確認できず
	2	1,040～1,085m	群落 →	点在	点在 →	確認できず
	3	1,085～1,130m	(群落) →	点在	点在	点在
中流	4	1,130～1,200m	群落 →	点在	点在	点在
	5	1,200～1,260m	群落 →	点在	点在	点在
	6	1,260～1,365m	点在	点在	点在	点在
上流	7	1,365～1,450m	出現せず →	点在	点在	点在
	8	1,450～1,570m	出現せず →	確認できず	点在	点在
	9	1,450～1,640m	出現せず →	点在	点在	点在

フサフジウツギは、98年に比べ下流部では群落が増え、中流部では群落が確認できず、やや生息が縮小している傾向が見られた。その一方で、98年の調査では分布が確認されていない上流部において、区画8では確認できなかったが、区画7・9では様々な大きさの個体が確認され、フサフジウツギの分布が戸台川上流部まで広がってきていることが明らかとなった。フジウツギについては、98年の調査ではすべての区画において確認されたが、今回の調査では下流部の区画1・2では確認できず、生息域が縮小している様子が見られた。

○参考文献

- ・卒業論文 南アルプス戸台川中、下流域における植物相及び植生解析—特に帰化植物の影響について
信州大学農学部森林科学科 緑地生態学研究室 伊藤風香 (1998)
- ・三峰川水系における帰化植物の生物学的侵入が生態系へ及ぼす影響 大窪久美子ほか(2001)
- ・長野県外来植物目録(2018年度版) 長野県外来植物目録編纂委員会